

ほろろの盆

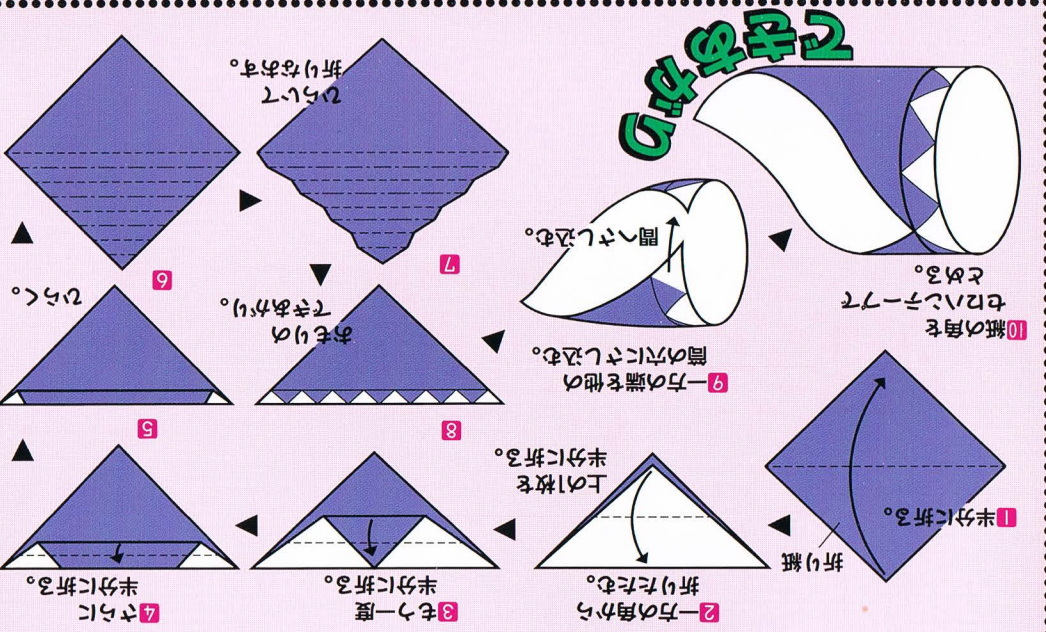


東京都下町区九段南一丁目一〇〇番地
 東京都下町区九段南一丁目一〇〇番地
 東京都下町区九段南一丁目一〇〇番地

「盆踊り」

盆踊りとは、お盆の行事の一つで、先祖の霊を慰めるために踊ります。盆踊りには、盆歌と呼ばれる歌が歌われます。盆踊りには、盆歌と呼ばれる歌が歌われます。盆踊りには、盆歌と呼ばれる歌が歌われます。

お盆



お盆のしおり

倒懸

—さかさまといひごと—

お盆とは、くわしくは「盃蘭盆」と書きます。インドのウランバナーという言葉が元になっていて、「倒懸」ともいわれます。それは、頭を下にして足を吊られてさかさまになっていることを意味しています。そのさかさまになって苦しんでいる人をたすけようというのがお盆のはじまりです。

今日、お盆といえば、だいたいは亡くなった人がこの世に帰ってくる日といわれていて、そのためにたくさんのお供えを用意したり、お墓まで迎えに行ったり送ったりする習慣にもなっているようです。それは、その人のために何かしてあげないといけない、お供えをすることが大切だ、と考えるからでしょう。

しかし、亡くなった人はそんなことを私たちに願っているでしょうか。またお供えによつて喜ばせたり、苦しみから助け出したりということができるのでしょうか。

よく考えてみれば、亡くなった人は、すでに喜びや怒りや、哀しみや楽しみなどのない静かな世界にいつてしまわれたのです。ちょっとしたことに腹を立てたり悩んだりしているのは、私たちの方です。亡くなった人をどうにかしなければいけないと考えるよりも、私たちが自身の生き方がはつきりしなければならぬのです。

テレビがあれば、今度はビデオやファミコンが欲しくなり、それが手に入らないとつまらなく思ってしまう。そして思いどおりにならない原因を他の人のせいにして、自分の考えは間違っていないと思うのです。それこそがさかさまになっている生き方です。

亡くなった人は「いのちある者は必ず死ぬんだよ」と身をもって教えてくれています。急がなくてもいいことを急いだり、必要のないものを欲しがったりして、さかさまになって生きている私たちに對して、「それでいいののか」と問いかけているのです。その問いかけに出遇うのがお盆のおまいりです。

小松教区 一楽 真

